

無限の発達



終わらない夏

全国障害者問題研究会 第 54 回全国大会 HOKKAIDO 2020

★と き/2020.9.12(土)-13(日)

★ところ/旭川市大雪クリスタルホール

ほか

★主催/全国障害者問題研究会・全障研第 54 回全国大会準備委員会

★後援/北海道・北海道教育委員会・北海道社会福祉協議会・旭川市

旭川市社会福祉協議会・日本障害者協議会・きょうされん他

[大会概要]

- 北海道新篠津^{しんしんづ}高等養護学校
卒業生による演劇「どんぐりの学校」
- リレートーク「われら北の大地で育つ」
- 分科会
乳幼児期の実践
学齢期の実践① 学校教育
学齢期の実践② 放課後・地域生活
青年・成人期の実践
発達障害の人たちの生活と発達
障害者の権利保障
なかまの分科会
- 学習講座 6 講座

ご 挨 拶 ー旭川が呼んでいる

2020年9月12日(土)・13日(日)の両日、道北の都・旭川において、「終わらない夏 無限の発達」のテーマのもと、全国障害者問題研究会(全障研)第54回全国大会が開催されます。1967年に結成された全障研にとって、オリンピック・パラリンピックの国内開催と重なる全国大会は初めてのことです。当然ながら時期はいつもの8月ではなく9月になり、開催地も北海道、道北になりました。本大会の特徴は、このようなく特殊事情を逆手に取り、コンパクトでシャープな大会を目指した点にあります。

大雪山連峰の懷に抱かれた旭川は、石狩川水系大小160本の川が流れ、730余の橋が架かる街です。市内の旭山動物園はもちろん、周囲には、富良野・美瑛、層雲峡などの観光スポットが目白押しです。旭川ラーメンもあります。

旭川は、日本の良心ともいえる作家・三浦綾子を生み出した地です。三浦は『銃口』で、戦前の治安維持法によって多くの教員が逮捕された「北海道綴方教育連盟事件」を描いていますが、最も多くの逮捕者を出したのが旭川でした。「子どもが書き綴った作品をみんなで読み、たいせつにする、そうしながら、それを書いた子どもも、学級の子どもも生活をみる目、考える力、共感しあう力を養っていき、生活に意欲をもってとりくんでいく」(北海道教育大学名誉教授・小田切正)という綴方(作文)の今なら当たり前の方法を大切にしてきた熱心な教員たちが教壇を追われたのです。「生活図画事件」として有名な旭川師範学校(現北海道教育大学旭川校)の教員と学生が実践した美術教育への弾圧の事実も、<表現の自由>喧しいこんな時代だからこそ、講演会や展覧会の開催とともにメディアで頻繁に取り上げられています。

旭川の地における先達の実践は、全障研が追求してきた発達保障の思想と実践と軌を一にしています。「終わらない夏」の「夏」には、決して途切れることのない「発達保障の思想と実践」が含意されています。

皆様におかれましては、どうか北海道、旭川という場での学びを体験してください。旭川で共に明日への一步を踏み出そうではありませんか。(全国障害者問題研究会第54回全国大会準備委員長 二通 諭)

9月12日(土) 全体会 13:30~17:30 (受付: 12:30~)

旭川市大雪クリスタルホール音楽堂

●特別公演 演劇「どんぐりの学校」

出演者 北海道新篠津高等養護学校演劇部
卒業生の皆さん



2017年3月、創部3年目の新篠津高等養護学校演劇部が岐阜県大垣市で開かれた春季全国高校演劇研究大会への初出場を果たしました。97校が出場した全道各地の大会から、18校が全道大会に選ばれ、さらに、北海道から全国大会に出場できる2校のうちの1校になったのですから、まさに快挙です。作品タイトルの「どんぐりの学校」は、高等養護学校という<どんくさい学校>に由来します。10人の部員が自分たちのことをモデルにしたもので、さながら本人が本人を演じているかのような胸打つ作品です。義務教育時代に特別支援学級に在籍したことや、現在、特別支援学校に在籍している事実、さらに家族内での立ち位置、進路についての自身のイメージなど、その内面世界がリアルに吐露されています。

顧問の山田勇氣先生は、これまで宮沢賢治作品をモチーフにしながら、さまざまな社会的課題にアプローチしてきました。津久井やまゆり園事件のニュースからスタートする「ましろく怒れり」では、内なる差別意識を描き、続いてその発展形としての「鈍行列車に乗ってどこまでも」に挑み、「よだかの夢」では、強制不妊手術をひき起こした旧優生保護法・優生思想克服の課題を伏在させ、再び春季全国高校演劇研究大会(2020年3月新潟)出場となった「オツベルの象たち」では、障害者雇用の到達をふまえながらも、若者たちを覆う<貧困と格差>という現下の状況を捕捉しています。

そして、2020年9月12日、いっそうパワーアップした卒業生による「どんぐりの学校」の再演。堪能してください、一回性に賭けた舞台を、「原石の輝き」に瞠目必至の舞台を。



●スライド&リレートーク 「われら北の大地で育つ」

北海道、北の大地における、障害児者や特別なニーズを有する人々の軌跡を発達と権利の保障の視点から辿ります。

障害の重い子どもたちの教育権保障を軸に、障害者の生活圏拡大運動としてのまちづくり、学校卒業後の発達と労働の場としての共同作業所づくり、就学前の豊かな保育・療育の保障など 1970 年代から 80 年代にかけての胎動。

後期中等教育の保障としての高等部増設、豊かな放課後づくりを軸に、障害者の「生活の質」を問う実践の 80 年代末から 90 年代にかけての発展。

そして、今世紀。後期中等教育終了後の青年期教育、障害の重い人の労働と発達、発達障害、愛着障害、性的マイノリティ等への多面的な支援、優生思想克服への挑戦。それは、だれもが生きやすいインクルーシブな社会を創る一里塚であり、未来へのバトン。



9月13日(日) 分科会・学習講座 9:30~13:00

旭川市大雪クリスタルホール・旭川地場産業振興センター・旭川市神楽公民館

●分科会 指定レポートの報告と討議を行います。実践に基づいた3本のレポート報告のうち、1つは北海道内の実践の報告となっています。

- ◆第1分科会 乳幼児期の実践
- ◆第2分科会 学齢期の実践① 学校教育
- ◆第3分科会 学齢期の実践② 放課後・地域生活
- ◆第4分科会 青年・成人期の実践
- ◆第5分科会 発達障害の人たちの生活と発達
- ◆第6分科会 障害者の権利保障
- ◆第7分科会 なかまの分科会



●学習講座 各講師がテーマにそってお話しします。全障研大会にはじめて参加する方たちにおすすめです。

講座の時間

9:30~11:00(講座1・3・5) 11:20~12:50(講座2・4・6)

療育・保育に関する講座

- 1 「子どもを笑顔にする療育」 池添 素（全障研副委員長、福祉広場）
- 2 「発達保障とは何か」 白石正久（全障研副委員長、龍谷大学）

教育に関する講座

- 3 「重症児の発達と教育」 細渕富夫（埼玉大学）
- 4 「子ども、学校、家庭をつなぐ教育実践」 三木 裕和（鳥取大学）

青年・成人期に関する講座

- 5 「ゼロから学ぶ障害のある青年のセクシュアリティ」 伊藤修毅（日本福祉大学）
- 6 「重度障害者の労働と発達保障」 北村典幸（旭川大学・あかしあ労働福祉センター）



委員長	二通 論	札幌学院大学名誉教授
副委員長	北村 典幸	あかしあ労働福祉センター理事長
同	上田 敏彦	札幌市子ども発達支援総合センター長
同	佐藤 春光	北海道手をつなぐ育成会長
同	上田マリ子	北海道自閉症協会ポプラ会長
同	永瀬 次郎	北海道学習障害児・者親の会クローバー会長
同	伊藤 克実	札幌学院大学教授
同	小渕 隆司	北海道教育大学釧路校准教授